

野菜研究室ダイアリー

2025 年 8 月



○農業技術懇談会でイチゴに関する取組を紹介しました

令和7年度農業技術懇談会が開催され、県内の指導的な農業者の方々（愛知県農業経営士協会、同・青年農業士連絡協議会の会員）に私たちの研究室のイチゴに関する取組を紹介しました。農業者の方々から直接ご意見やご助言を頂戴することができ、大変勉強になりました。



スライドを示しながら取組内容を説明



イチゴの育苗ハウスをご案内し
ざっくばらんに意見交換

○ラジコンモアによる除草作業デモンストレーション

農業機械メーカーのご厚意により、ラジコンモアによる傾斜地除草作業のデモンストレーションを実施しました。

担い手が減少し、ほ場畦畔等の管理が農業者に重くのしかかっています。特に中山間地域においては、集落営農組織等での省力機械導入により、農村環境の保全と耕作放棄地の発生防止が期待されます。愛知県農業総合試験場も広大な敷地を有するため、保全管理の作業負担は小さくありません。最新鋭のラジコンモアが、確実に負担軽減に役立つことを実感しました。



傾斜地の雑草を刈り
進むラジコンモア



始めはおっかなびっくり
でも、慣れれば誰でも操作可能



メーカーの方の手に掛かれば
灌木混じりの厄介な場所も刈り払い可能

○結果のとりまとめと次の試験の準備が佳境です

前号(7月)でもご紹介しましたが、私たちの研究室にとって夏は切り替わりの季節です。春までの試験で集めた試料の分析業務、次の試験に向けてほ場を整える作業などに追われています。



栽培終了後の植物体を乾燥させて粉碎し、分析



栽培ハウスの土も分析



イチゴ苗のお世話で葉を整理



トマトの播種(タネまき)



ボイラーで栽培ベッドに蒸気を送り込んで土を消毒



施設内の気温は45℃を超えることもあり、健康管理が最大の課題



ナスほ場1か所は、暑さが厳しい真夏に掛けて栽培を継続



○暑熱対策が、目下の最大の課題！

毎日、とにかく暑いので、野菜と職員の両方にとって少しでも涼しい環境を作り出すことが最大の課題です。近年、現場からの要望も、「高温対策に関する試験研究」が独走状態。ふつふつと沸騰する地球の将来に不安は尽きないですが、少しでも役立つ試験研究に取り組みたいと考えています。



育苗に使う手前の温室は、遮光資材をたっぷり散布し、真っ白！



かん水チューブで栽培施設の側面に軽く散水することで室温が低下



研究室のほ場で謎の球体を発見！キノコの1種、オニフスベです。
左の白い状態は発生初期の様子で、白いうちは食べることもできるそうです。



うち続く災害級の猛暑の中、ヤバすぎる
灌木アカメガシワもしおれていました。と
はいえ、この程度ではへこたれないのが残
念なところです。



アカメガシワ並みに厄介なヌルデも目につきます。猛暑の中、元気いっぱいです。

憎まれっ子世にはばかるのは、人も植物も同じのようです。英語圏のことわざでは
「ill weeds grow apace(憎らしい雑草ほどよく育つ)」というそうで、「そのまんまや
ん」としか言いようがありません。



愛知県農業総合試験場 園芸研究部 野菜研究室